

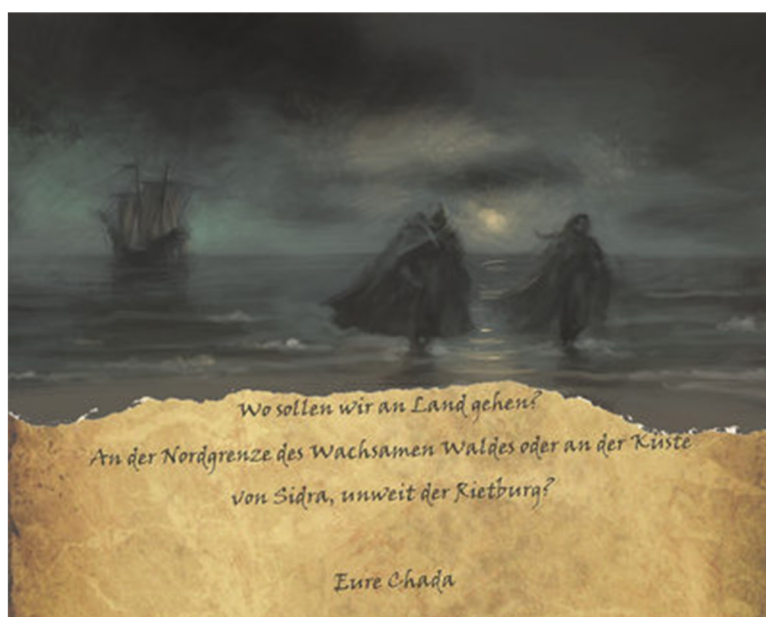


『災いの島の冒険』 流木湾

ゲルハルト・ヘイト作の1~2人用協力カードゲーム『アンドールの伝説カードゲーム:災いの島の冒険』専用の、新たなる冒険・第1弾です。

2人の意欲的な勇者のための、この新たな困難に満ちた冒険に挑戦してみてください。

それでは、楽しんで！



より詳しい情報はこちら

<http://www.arclight.co.jp/ag/al/>

災いの島の冒険

封じられし冒険1 流木湾

アルデバラソ二世号の甲板は冷え切っていた。風は勢いを増して時化となり、チャダは船縁をしつかり掴んでこらえていた。シュテイナーは舵を取り、ソーンは船内で眠りに就いていた。ナルコンに上陸して以来、ソーンは変わってしまった。北方での旅は彼の心を荒ませ、より冷たい性格となった。チャダは彼のユーモア精神が好きだったのに、今ではすっかり失われてしまった。あまりにも多くのことを体験しすぎたのだ。

シュテイナーは、アンポール北岸への針路を見定めていた。黒きコク船に勝利したことで、チャダたちの北方での役目は終わった。アンポールで待ち受けているものが何なのか、まるで見当がつかなかった。クルンがいまわの際に放った呪詛は、単なるハッタリなのだろうか？あるいは勇者たちが不在の間に、巨人族クラードによって、アンポールは本当に襲撃されようとしているのか。チャダは、これから自分たちが直面することを、そして一体何が起ころうとしているのかを、まだ知ることはなかった。

チャダは船室へと戻り、書き物机の席に着いた。ランプを引寄せ、無記入の羊皮紙を広げた。誰宛てに手紙を書くべきだろうか。歌う森の守り長メルカルト？盾ボーフのクラム侯？いや、そうではない。チャダは自分の鷹がこの嵐の中に一筋の道を見出すことに望みを託し、全てのアンポールの民へ向けた手紙をしたためた。

勇敢なるアンポールの皆さん

ハドリアの地に不幸な報せが届きました。

私たちは欺かれ、はるか北方の地で陥穽に嵌められてしまったのです。

ソーンと私はアンポールへの帰路を急ぎましたが、それは思ったより危険で困難な道でした。

次の物語カードへと続く……



災いの島の冒険

封じられし冒険1 流木湾

船は転覆し、私たちは呪われし島ナルゴの北岸へと打ち上げられました。
何人たりとも、この島から出ることはできませんでした。
かつての海王コテラタコの呪いが、島（ゆう）を支配している限りにおいては。

さまざまな怪物やならず者が、襲い掛かってきました。
とりわけ〈流木湾〉についての冒険は、過酷なものでした。

チャダの筆は、そこでピタリと止まった。あの出来事を思い起こすたび、恐怖と共に体を戦慄が駆け抜けるのだ。間一髪、怨霊からは逃げ切ることができた。だがそれは、北方の冒険行のなかでも、彼女自身に対して、たいへんな苦しみを強いるものだったからだ……

そんな試練を乗り越えた今、私たちはどこへ向かうべきでしょうか？
見張りの森の北岸ですか？

それともリートブルク城に程近いシトラの浜辺ですか？
ぜひ教えてください。

皆さんの忠実なるしもべ、チャダ

ADVENTURER
ANDOR
2016



アンドールの
伝説
ANDOR

災いの島の冒険

封じられし冒険1
流木湾



災いの島の冒険

封じられし冒険1
流木湾



アンドールの
伝説
ANDOR

災いの島の冒険

封じられし冒険1
流木湾



アンダーの
伝説
ANDOR

災いの島の冒険

封じられし冒険1
流木湾



アンドールの
伝説
ANDOR



剣山岩礁

嵐ヶ原

流木湾

ハドリア海

スクラル洞

西の岸壁

ヴラックハイム、あるいは
忘れられし港ナルコンナ

猫背湾

沈黙の森

炎の湿原

万里の山脈

白銀山脈

青銅海岸

霧の島の地図
ナルコン／白銀の国

作図：製図家メリック

赤銅海岸

白銀の城窟

ハッルヴォルトの墓標